

# 千葉県社保協通信

2023年度 No.5 2023年 10月 8日号

〒260-0854 千葉市中央区長洲 1-10-8 自治体福祉センタービル3F

TEL : 043-225-6790 FAX : 043-221-0138 Eメール [syaho2022@themis.ocn.ne.jp](mailto:syaho2022@themis.ocn.ne.jp)



**“保険証廃止”はありえない!!**  
**“インボイス” やめて!!**

**県社保協・憲法共同センター・消費税廃止連絡会**

〽投票に応じた9人全員が、保険証廃止に「反対」。「頑張ろう!!」の励ましの声も寄せられました。

また、自営業の女性は「インボイスは本当に困る。これまで以上の負担に耐えられるか・・・ひきつづき事業が続けられるか不安」「税金はくらしのために使ってほしい」と「平和・いのち・くらし壊す大軍拡・大増税NO」の署名に応じました。

- 軍事費の拡大ではなく社会保障の拡充を求める=2筆
  - 消費税5%へ=1筆
  - 保険証廃止するな=6筆
  - 平和・いのち・くらし壊す大軍拡・大増税NO=4筆
- 計13筆

9月26日(火)12時~13時、千葉駅東口そごう側通路にて、共同の定例宣伝を行いました。

県社保協など5団体8人の参加。「政府は来年秋に保険証を廃止することを決めました。事実上のマイナンバーカードの取得強制につながります」などと訴えました。「保険証廃止どう思う?」のシー

## 年金者組合 最高裁に要請 年金引き下げ違憲訴訟 生活実態を直視し 憲法判断を!!

10月3日(火)、年金裁判・第6次最高裁要請行動が行われました。全労連、全教、医労連、建交労などの労働組合や中央社保協など年金裁判を支援する諸団体の代表らとともに、千葉県社保協からは、藤田まつ子事務局長が参加。行動には首都圏を中心に約100人が参加しました。

最高裁前には、団体旗がはためき、活気がみなぎりました。中央社保協林信悟事務局長やNPO法人理事で「下流老人」の著者・藤田孝典さんらが次々にスピーチ。個人署名2,214人分(累計47,560人分)を提出。その後、2班に分かれて最高裁に要請行動を行いました。

千葉地裁で証人として法廷に立った藤田事務局長は、この日、最高裁書記官を前に訴えました。「貧困、病気、高齢や失業による困難は自己責任ではなく社会的に解決すべきものです。現在の基礎年金は満額でも月6万6千円台。一方、医療費窓口負担、医療・介護保険料の負担増で、年金



要請行動の後、全教会館にて報告集会が開かれた。

削減で可処分所得が減り続けています。『憲法25条』の『健康で文化的な最低限度の生活』にはほど遠いものです。国連社会権規約委員会は『日本の高齢者、特に高齢の女性の貧困の増大を懸念』し、繰り返し最低保障年金制度の導入を日本に勧告しています。「政府は勧告に沿い、最低保障年金制度をつくるべきです。安心の年金制度になるように最高裁の判断をお願いします」と訴えました。

加藤健次・全国弁護士共同代表は報告集会で、「東京事案で、大法廷で統一的判断を行うこと、(判決文案を書く)調査官面談を行うことの2点を書面で求めた」、「私たちのたたかいと世論の広がり、拙速な最高裁判決を思いとどまらせている」と述べ、参加者を激励しました。